

リハビリテーション科学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

問題 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

超高齢社会の日本では、生活習慣病の予防・改善による健康寿命の延伸が大きな社会目標となっている。特に、情報の煩雑化が進む現代では、その目標達成のため身につけるべき重要な能力として、一人ひとりが個人に合った健康情報にアクセスし、健康のために望ましい行動ができる能力である「ヘルスリテラシー」に注目が集まっている。

リテラシーは直訳すると「読み書き能力」であるが、ヘルスリテラシーについては、1998年、シドニー大学教授 Don Nutbeam 氏が「良好な健康状態の維持・推進のために必要な情報にアクセスし、理解し、活用するための個人の意欲と能力を決める認知的社会的スキル」と定義しており、これは WHO（世界保健機関）のヘルスプロモーション用語集にも採用された。また、米国では国民皆保険制度がなく、健康維持のためにある程度の識字力、情報理解力が必要とされることから、国民の健康に関する 10 か年指針「ヘルシーピープル 2010」では、「健康に関する適切な意思決定を行うのに必要な健康情報、健康サービスを手に入れて整理し、理解する能力の程度」と定義されている。

Nutbeam 氏はさらに、ヘルスリテラシーについて、次の 3 段階を提唱している。

- ① 機能的ヘルスリテラシー：健康情報や健康サービスを得たり、理解したりするための読み書きの能力。
- ② 相互作用的ヘルスリテラシー：知識や情報に基づいて自立的に活動したり、周囲の人とうまくコミュニケーションを取ったりしながら自分の意欲や自信を向上させることができる能力。
- ③ 批判的ヘルスリテラシー：批判的に情報を分析し、身の回りのことをコントロールできる能力。

このように、情報を受け手として理解するだけでなく、それを活用し、周囲へ働きかけていく能力が必要であることが示されている。

ヘルスリテラシーの定義は WHO や米国などで若干の違いはあるものの、米国の調査ではヘルスリテラシーが低いことで健康にさまざまな悪影響が及ぶことが指摘されている。ヘルスリテラシーが低い人は、「マンモグラフィ検診、インフルエンザ予防接種などの予防サービスを利用しない。病気、治療、薬などの知識が少ない。ラベルやメッセージが読み取れない。医学的な問題の最初の兆候に気づきにくい。慢性的な病気を管理しにくい。保健・医療の専門職に自分の心配を伝えにくい。慢性の病気で入院しやすい。救急サービスを利用しやすい。職場でケガをしやすい。」などの傾向があり、その結果、死亡率の上昇などにつながっている。これは、医療情報を正しく取得・理解できないだけでなく、それによりコミュニケーションが十分に取れないため、新しい知識が身につかない、言われたことを肯定的に考えられず自信がもてない、行動を変えられないなどが積み重なった結果だと考えられている。

また、WHO ヨーロッパ事務局が 2013 年、ヘルスリテラシーに関するエビデンスを整理したレポートでは、ヘルスリテラシーと非感染性疾患の危険因子となる身体活動不足、不適切な食生活、喫煙、飲酒との関連に触れている。特に身体活動量との相関については、国によって差はあるものの、ヘルスリテラシーが高い人ほど、身体活動量が増加し

ているという研究結果を挙げている。

【出典】特集 子どもたちのヘルスリテラシーの育成, 「健康づくり」2019年6月号, No. 494, pp. 2-6, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団 から抜粋, 一部改変。

- 問1 本文中の下線部のような研究結果がみられたのはなぜだと考えられるか。本文の内容を踏まえて、あなたの考えを200字以内で述べなさい。
- 問2 将来あなたがリハビリテーション職に従事した場合には、医療や健康に関する情報を提供する側に立つことになるが、情報提供者側には何が求められると考えられるか。受け手のヘルスリテラシーの観点を踏まえて、具体例を挙げながら、あなたの考えを800字以内で述べなさい。